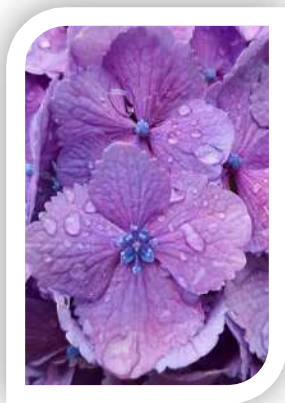




令和5年度もあっという間に紫陽花の季節になりました。区内各所、この時期の町を彩ってくれているのが紫陽花ですね。こどもたちにも見慣れた風景になっているようです。左の写真は、区内小学校で、「地域学校協働本部」の方々が世話くださっている紫陽花のほんの一部です。

学校に伺い実物を提示し、「見たことはありますか」「どこで見ましたか」などと聞くと「学校の裏」「校庭」「公園」「保育園にあった」「学校に来るときに見た」「おばあちゃんちにある」等々教えてくれます。

『紫陽花』を季語に俳句を作ることにしました。こどもたちに夏の季語プリントを配布して「紫陽花の別の言い方を探してみましよう」と声をかけると「額紫陽花」「額の花」「よひら」「七変化」「濃紫陽花」などの言葉を見付けます。「紫陽花は四音の言葉なので、俳句では『額の花』という五音の言葉も便利です」と伝えたり、なぜ「よひら」というのかこどもたちが予想を立てたりしました。「七変化」というけれどそんなに何度も色が変わるのか、などこどもたちは興味津々です。



左のような花のアップを提示し「花びらに見えるのは『額』で、四枚あること」（「よひら」の意味に納得）「本当の花は真ん中の小さい粒みたいなもの」と分かると喜んでくれます。「はじめは葉っぱと同じ黄緑の額がその後、変化していく」様子は見たことがある子もたくさんいました。（「七変化」の意味に納得）

俳句を通して季語を学んだり、観察したり自然に触れる機会が増えることは素晴らしいことだと改めて思いました。



以下にこどもたちの俳句を紹介します。

- 『七変化しづくはじけた雨上がり』
- 『あじさいのあわい水色わたあめだ』
- 『あじさいや本当の色はどこにある』
- 『通学路小さいむらさき額の花』
- 『額の花氷のけっしょうみたいだな』